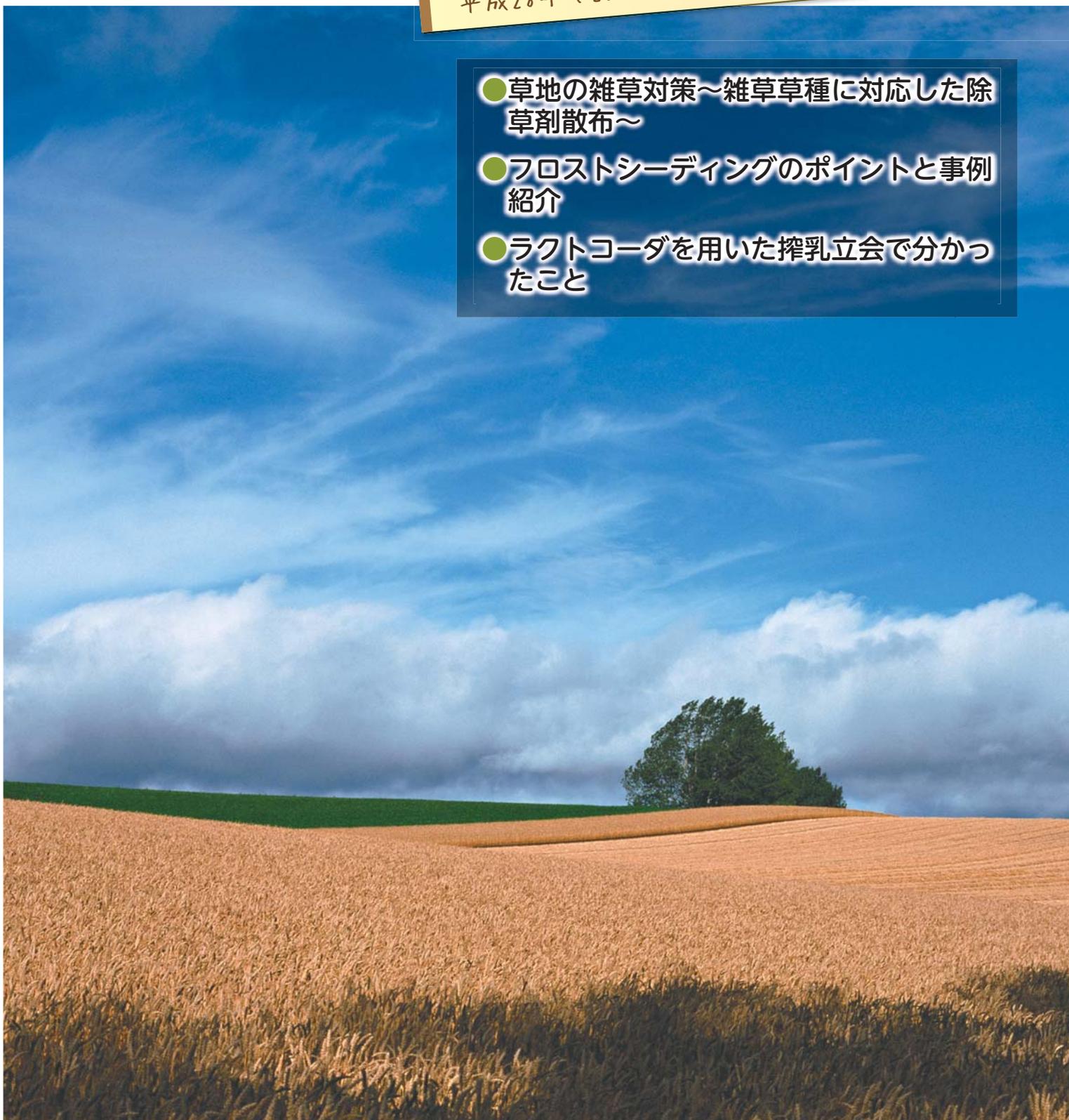


たねニュース

平成28年(2016年)9月1日発行(隔月1回1日発行)

- 草地の雑草対策～雑草草種に対応した除草剤散布～
- フロストシーディングのポイントと事例紹介
- ラクトコーダを用いた搾乳立会で分かったこと



草地の雑草対策

～雑草草種に対応した除草剤散布～

トータルサポート室 佐藤 尚親

地下茎型イネ科草に優占された草地をチモシー草地に更新する場合、グリホサート系除草剤の散布が必要です。しかしながら、優占した地下茎型イネ科草がリードカナリーグラスの場合とシバムギの場合では、グリホサート系除草剤散布のタイミングや草地更新の施工方法が異なります。

ケンタッキーブルーグラスやレッドトップ等の地下茎型イネ科草種は、リードカナリーグラスまたはシバムギを対象にグリホサート系除草剤を散布することで防除されます。

まずは植生調査を行い、優占している地下茎型イネ科草種を特定して、以下に記載する方法でチモシー草地に更新してください。

1. シバムギが優占しリードカナリーグラスの侵入が認められない草地に年内播種する場合

シバムギは種子の生産能力が低い一方、地下茎の伸張速度が高く全長も長くて、再生可能な節の休眠芽も多いことから、シバムギ優占草地では地下茎からの再生を枯殺する前植生1回処理が効果的です。

そのためには、処理したグリホサート系除草剤が植物の緑色茎葉部を通じて植物体内に十分吸収され、引き続き植物全体に移行分布して殺草効果を現す必要があります。薬剤を十分吸収させるためには、茎葉部はシバムギの場合草丈で40～50cm必要なことがわかりました。このことは、刈取り後には一定程度の再生期間が必要なことを示します。

- 1) 牧草の播種時期は、8月末までの播種を目標とします。
- 2) 1番草収穫後、再生したシバムギの草丈40cm程度

でグリホサート系除草剤を茎葉散布します。

- 3) シバムギへのグリホサート系除草剤散布後、10日以上以上の枯殺（放置）期間を確保します。その間、作業機械等の圃場への侵入は控えます。
- 4) シバムギは早春の施肥が不足すると再生が極端に悪くなるので、1番草まで（早春）は通常の施肥管理を行ってください。

2. リードカナリーグラスが侵入した草地に年内播種する場合

リードカナリーグラスは地下茎からの再生に加え、埋土種子からの発生が多くあります。そのことから、前植生に対するグリホサート系除草剤処理と、播種床造成後に発生した実生個体へのグリホサート系除草剤処理の体系処理（2回処理）が必要です。

- 1) 牧草の播種時期は、道央・南地域では9月上旬、その他の地域は8月末までの播種を目標とします。そのため1番草刈取り後および播種床に発生した雑草へのグリホサート系除草剤体系処理（1刈後体系）が最も効果的です。
- 2) 1番草収穫後、再生したリードカナリーグラスの草丈60cm程度でグリホサート系除草剤を茎葉散布します。シバムギが混在する場合はシバムギの草丈40cm程度を指標として優先します。
- 3) リードカナリーグラスへのグリホサート系除草剤散布後、10日以上以上の枯殺（放置）期間を確保します。その間、作業機械等の圃場への侵入は控えます。
- 4) 播種床造成後の鎮圧は、雑草の再生を促すためにも必要なので必ず行ってください。
- 5) 播種床造成・鎮圧後の雑草発生期間は30日以上確保して、リードカナリーグラス等の埋土種子を十分

1.の施工パターン

年 月	播種当年											
	6月			7月			8月			9月		
対象雑草	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
全道												
1番草後 体系防除 当年TY秋播種				1番草 収穫						10日以上枯殺		
QG再生遅い RCG無し				地下茎再生						播種床造成		
							G散布 QG40cm			播種		

に発芽させてください。

6) 播種前年あるいは前々年からリードカナリーグラス

スに種子を生産・土中に落下させないような刈り取り管理（6月中の刈取）を実施してください。

2. 施工パターン

年 対象雑草	播種当年												
	6月			7月			8月			9月			
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	
道央・南 地域													
1 番草後 体系防除 当年TY秋播種	RCG RCG+QG QG 再生早い		1 番草 収穫		地下茎再生		G散布 QG40cm RCG60cm		10日以上枯殺 播種床 造成 鎮圧		30日以上地下茎・実生発生 播種床 G散布 播種		
十勝・オホーツク・天北・根釧 地域													
1 番草後 体系防除 当年TY秋播種	RCG RCG+QG QG 再生早い		1 番草 収穫		地下茎再生		G散布 QG40cm RCG60cm		10日以上枯殺 播種床 造成 鎮圧		30日以上地下茎 実生発生 播種床 G散布 播種		

3. リードカナリーグラスまたはシバムギが侵入した草地に翌年播種する場合

当年に播種出来ない場合は、2 番草刈取り後、前年秋に前植生にグリホサート系除草剤処理を行い、翌年に埋土雑草種子の発芽が揃ってから、播種床に再度グリホサート系除草剤処理・牧草播種を行う方法（秋夏体系）が有効です。牧草の播種時期は8月の播種を目標とします。7月に播種した場合は、実生雑草との競合が懸念されます。

- 1) 播種前年の2 番草収穫後、再生した前植生へグリホサート系除草剤を茎葉散布します。この際の草丈は、リードカナリーグラスは草丈60cmを上限になるべく草丈が高い方が良く、シバムギは草丈40cm程度まで再生させて、グリホサート系除草剤を茎葉散布します。リードカナリーグラスとシバムギが混在する場合はシバムギの草丈を優先します。
- 2) 翌年の牧草播種時期を8月にするため、播種床造成は6月下旬までの間で出来るだけ遅い方が望ましいです。
- 3) 播種床造成後の鎮圧は、実生雑草、生き残った地下茎断片からの再生を促すため丁寧に行いましょう。
- 4) 播種床造成・鎮圧後の雑草発生期間は30日以上確保してリードカナリーグラス等の埋土種子から十分に発芽させてください。
- 5) 翌年播種の場合も、播種前年あるいは前々年からリードカナリーグラスに種子を生産・土中に落下さ

せないような刈り取り管理を実施してください。

4. 共通の留意事項

- 1) 除草剤散布当年に播種する場合は、天候や不慮の要因による作業遅れに対応するため、更新対象草地の1 番草収穫は最も早く（6月上旬頃）に行います。
- 2) 前植生への除草剤散布後に枯れ草が多く、播種床造成作業の耕起や表層攪拌の邪魔になる場合は、搬出または（チョップ等で）粉碎してください。
- 3) グリホサート系除草剤の散布ムラや気象条件等による不十分な薬効を認めた場合は速やかに2 回目の茎葉処理を行います。
- 4) ギシギシ対策として、牧草播種当年の晩秋にチフェンスルフロンメチル剤の使用が想定される場合はクローバ類を導入しないようにしましょう。
- 5) 除草剤の薬量・使用回数は農薬登録を遵守してください。



3. 施工パターン

年 対象雑草	播種当年																
	8月			9月			5月			6月			7月			8月	
	旬	中	下	上	中	下	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
全道																	
2 番草後 体系防除 翌年TY夏播種	RCG、 QG共通		2 番草 収穫		G散布 QG40cm RCG60cm		越冬		播種床造成・鎮圧 6月下旬までの間で 出来るだけ遅い方がよい						30日[程度]地下茎・実生発生 播種床G散布 (7月中は避ける) 播種		